

三月

予定

一日より四日迄休み

五日、休み

六日、予餞会

七日、卒業式予行

八日、卒業式

十四日、誕生日

七日、剣友会入会式

十三日、午前九時、平へ出発

十五日、入社

二十七日、議会閉院式

三月一日（金） 曇 寒

起床八時半 朝食、卵湯をのんで我慢する

十時 床を上げて、簡易保険医に行く十一時半迄 待たせらる風邪は大した事はないと、注射一本（三十銭）吸入器をかける。薬三日分七十銭支払ふ十二時半出て兵営前郵便局に通帳の全払をなす。

途中 加藤三井君に会ふ。帰りに芳賀歯医者に行き歯の治療を頼む一週間位の予定。

吉田菓子屋より牛乳パン二十銭買ひ中食に当てる二時家に帰る。再び床に就く

四時 お父さん紫湯に行かれる

夕食後、お母さん忠雄、正雄、善四郎 友子 あやめ湯に行かれる

十時 山口様御出になる、

熱は三十七度九分に降下す、就寝 十時半

欄外の記事

早起には三文の得あり（古諺）

奉天総攻撃開始（明治38）東京放送局開設（大正14）満州国成る（昭和7）

三月二日（土） 曇 寒

起床八時、今日は町内の火ぶせで自分の家と大島さんと水野さんが当番です。

家には諏訪神社の官主さんが御出になるので部屋を座敷にかへて屏風を立て火ばちを据えてお待ち致しておりました定刻十時過ぎ松おさんと官主さんが御出になられましたそれから次々と町内の五人組が家の狭い処にごちゃごちゃとお上りになられました。その後、祝詞があった後 町内にお札を配りになられました二三度こられた後約一時過ぎ漸く終り皆

んな御帰りにになりました。

その後三時から天京で宴会がありました。お父さんは当番なので二時半頃御出掛になり七時頃御帰りにになりました。折箱別けて頂きました。(芳賀医) 余り御茶おけを御馳走だったので腹が変になりました。山口様御出になる。十時半 寝る、

欄外の記事

ゆるゆると昼やや早き食堂の明るき方に歩み至れり (田中武彦)

新羅皇太子御来朝 (持統 9) 帝国大学令公布 (明治 19)

三月三日 (日) 曇 暖

夕夜より降り続いた雪一寸ばかりもう今朝には融けてしまひました。八時半頃起床す、午前中 何もする事なくぼんやりとすごしてしまひました。昼になるのは早いものです。昼食とろろで食べ午後二時十五分前芳賀医者に行くも不在、治療を休む、二時十分に家に帰る。どうも頭が重いので布団を敷き床に就く 四時お父さん当番及五人組の慰労会を一力、にある為に行かれる。

夕食、まぐろの刺身の御馳走あり

お父さん 八時前に帰って来られあやめ湯に行かれる 高橋義助様、九時半前にお出になる。九時五十分山口様こられ続いてお父さん帰って来られる
十時半に寝に就く 十 tm 記

欄外の記事

春雷を聞きしと思ふ北寄りに雪おろし来る朝明けがたし (柳香)

桜田門外の変 (万延元) 明治節御制定 (昭和 2) 劇作家岡本綺堂没 (昭和 14)

三月四日 (月) 曇 暖

起床七時五十分 午前中 友子をおんぶして地のソバカスを後ノ分のきなこ屋に買ひに行きました。

その中にお母さんは布団をこしらひて下さいました。午後一時、お父さん仕入の為名古屋に行かれる

自分は芳賀医者に行くも留守それから学校に佐野君をさそって参りました。高橋六郎君と会ふ、三時半それから田端写真屋に参りました。小池、五十嵐、川島 鈴木 長瀬の五君と会ふ、四時五十分芳賀医者に行くも又留守家に帰り、再び六時に出掛ける 剣道部の有志送別会にのぞむ玉川旅館に於て 校長先生風間先生外五年四年十一人合計十三人会費壱円五十銭共に夕食をなす、八時先生兩人お帰りになる それより約十一時迄互に語り合ひて帰る 就寝 十二時近く

欄外の記事

一事をも知らざる人は決して疑ふことなし（英国俚諺）

澤田正二郎没（昭和4）久邇邦久侯逝去（昭和10）皇軍海州占領（昭和14）

三月五日（火） 曇雨 暖

起床七時五十分 大急ぎにて登校途中佐野君を誘ってゆっくり行く学校に行くも何もなく剣道着を内藤君にやって仕舞ってかたづく直に帰る途中佐野給仕君より成績順位を見せていただいた自分は十番とな永瀬君13番途中小池君に家に行って遊ぶ事十一時半に及ぶ

関 大宮 鈴木の三君も来る 十一時半解散す、
家に十二時に着く 一時半、芳賀医者に行くも留守、家に帰る 三時半 再び行き治療を行ふ それから 家に帰って店番をなす。（会社より手紙の返信、夕食にライスカレーといふもの御馳走あり、

小池君の家より帰る途中横山（半？）君の家による 医者に行く途中、永瀬、山口（富）の二君と大和町にて会ふ 医者まで一緒に行く、九時あやめ湯に二十日振りに行く垢の山、足の黒さ 山口様御出になる 十一時寝る

欄外の記事

野火うつる障子をあけて子と呼ばふ（拐童）

小野通女没（元和2）歌川国芳没（文久元） テーマ没（1839）

三月六日（水） 啓蟄 晴 暖

特別記事

記念品として茶碗一個 去年吾等はこの様にして送った吾等も今はもう送られる身となった 光陰矢の如し

訂正文あり（二重線）

起床七時半 直に弁当持って登校 今日予餞会である、例年の通り講堂にて行ふ 拍手に迎ひられて入場す、初め皇居並神宮遙拝黙トウ開会の辞、校長の訓話 ありて後 各部送辞に対する五年生答辞 茶菓及余興に移る非常に余興も面白く午後にも近藤風間田部井の諸先生及小林教官も歌を唄ひになりました、特に上手あったのは四年弓田の浪曲及白岩の鼻ギター

風間先生の会津盆踊の節、等であり外にも上手な橋本・吉田等のハーモニカはよかった、三時 再び拍手に送られて万国旗に飾られた講堂を出て帰校途中芳賀医に行く夕食後、（くにがまえの中に万の字）読めないに行く 糸の配給券を以て
お母さん子供 お父さん姉さん風呂に行く 十時半 寝

欄外の記事

トラックに揺られて過ぎし瀧池河の水づける柳芽ぶきぬらむか（高橋茂美）

新田義頭戦死（延元 2）書家ミケランジェロ生(1475)

三月七日（木） 晴 暖

特別記事 すばらしいよい天気だ此分では最早花の櫻も早やかしら

起床七時五十分 今日成績発表と卒業式予行である。登校 朝礼にて稲お先生、及友田先生より、明日卒業式に就いて注意あり、朝礼後、五年生だけ講堂にて卒業式証書授与の予行をなす、その後、柔道場にて卒業後の會の結成する相談をなす、先づ 會名は二之會と定む、 會則は後程印刷す、委員は若松に在残者、関東、関西、満州に支部を設ける、年五十銭納付の事、吉凶事対しては参？ 右の事を定む その後 成績発表 帰校 昼食後再び登校して授業料を納付し山崎忠四郎君と一緒に帰る 家にて日光浴をなして店に居った

六時十五分家を出て剣友会員の話ありたる後記念品を載いて帰る

八時三十分 あやめ湯に行く 十時過ぎ寝る

欄外の記事

木々の芽や学童道をあふれ来る（碧雲居）

対馬国より銀を献す（天武帝 2）奉天大会戦（明治 38）北丹後大地震（昭和 2）

三月八日（金） 晴 暖

特別記事

一、卒業証書

一、優等賞

一、五カ年間皆勤賞、同窓会賞 葉書入レ

一、段証

一、同窓会より、赤白餅五個、赤白ラクガン二個

一、アルバム

一、学報

（本日授与されたもの）

今日は晴れの卒業式である。何となく心が落ち着かず嬉しいやら悲しいやら何物かが胸に迫って来る。十時式挙行、

一、挙式の辞 福島県立若松商業学校第二十六回卒業式

一、皇居遙拝 一、君代奉唱 一、勅語奉読

- 一、卒業証書 授與 卒業生 須田 昇 以下 九十三名
 - 一、賞状 及 商品 授與 (優等賞、松平賞、育英會賞、進捗賞、五カ年皆勤賞、四カ年皆勤賞、五カ年精勤賞、武道段証)
 - 一、學校長 訓話 一、長官式辞 一、若松市長祝辞、一、鶴岡部隊長祝辞、一、祝電 及 三瓶先生祝辞、一、同窓会長 祝辞、 一、在校生総代送辞 (大平善健) 一、卒業生総代答辞 (須田 昇) 一、父兄代表謝辞 (横山成治様)
 - 一、送別の歌、 一、閉式の辞 十一時二十分終了
- その後、同窓会入会式在り、先生にサインをアルバムをして戴く
帰り芳賀医による、夜、夕食後九時、山内寫真館にて家内中撮る

欄外の記事

古き世の火の色うごく野焼かな (蛇笏)

始めて度量衡器を天下に頒つ (大宝 2) ニコライ開堂式 (明治 24)

三月九日 (土) 雨 暖

起床八時十分、朝食をなし八時半停車場へ友達を送りに行く為についでに荷物を宅扱に出す為自転車につけて行き途中大和町山市綿屋の前で一大音響と共に自転車はパンクしたので引返し斎藤自転車屋に直しに行くその間福西に絲買ひに又、九重、買ひに菓子屋に行き帰る途中七日町郵便局で貯金を替六円十五銭を払戻す、それから自転車を以て停車場に行く、帰る途中橋本、秦の、両君に會ふ、十一時近き頃家に帰る。昼食後一時間乍ら寝る
二時、佐野君へ剣道着を返す、それから芳賀医に行き天寧寺町に自転車で三時近く着く
明日の事を話し夕食を御馳走になる、カワリ飯、サシミ、卵焼、オヒタシ、三杯頂く、七時電池を借り雨の降る中を帰る、お祖母さんより御餞別金二円也を戴く朝より雨がしとしと降り続き午後には降ったり止んだりの天気 十一時寝る

欄外の記事

己れの田に水を引く (古諺)

儒者亀田鵬齋没 (文政 9) 武藤山治狙撃さる (昭和 9)

三月十日 (日) 雨後晴 風強く寒

起床 八時過ぎ 朝食を抜き十時半に餅を搗く、餅搗も非常に疲れて困る、天寧寺町の妙子、十時来る、英一は十時半過ぎ来る、英一にも忠雄にもお母さんも手伝って来れた十一時餅を食べてから水餅を天寧寺町のお祖母さんの処へもって行った。今日は陸軍記念日なので町は非常に人出に賑わってゐた、兵隊青年学校生徒及中等学校生徒、総合演習は旧城跡を中心に今朝行はれた、終わって後、陸軍墓地参拝、市内行進 一時天寧寺町より帰る、途中囿万に寄る人 芳賀医に行き治療をなす、午後二時家に帰る、二時半小林先生御出に

なる。

小生四時三十一分の列車にて田島のお叔父さんの家に行く、六時過ぎ到着、御馳走になり又色々に話をなし、夕食は丼一ツ、十一時半寝る、今朝非常に天気がよかったが、午前中雨となり午後は曇りである。

欄外の記事

青々と春星かかり雪崩れけり（普羅）
伊勢大廟成る（垂仁帝 25）奉天占領（明治 38）

三月十一日（月） 晴 暖

昨夜より田島の一夜であった。八時近くに起きる。朝は相当寒じが厳しく寒かった、朝食後十時半 羊カン屋に行って二十本三円程買ふ、叔父さんよりショールと餞別金五円戴く十一時五分の列車にて帰る、叔母さんとし子と新作さんと一緒に帰る、一時会津若松駅到着、叔母さんと別れる直に芳賀医に行く、途中石山君と小森君に會ふ二時過ぎ家に帰る。それから相葉君の家に遊びに行く筈を贈る、五時家に帰る、夕食後 大善屋に暇乞ひに行く、お叔母さん留守なのでせい子様あんちゃと話を聞く十時生寿しをとってくださった。それから風呂に入り、餞別五円も戴く、停車場に友達を送りに行く事不可能となる岸、三谷、山崎、関の四君が行かれる 十二時寝る

欄外の記事

命ありてふるさとの春の土踏みし兵らつつしみ多くを言はず（水守透）
武田氏天目山に亡ぶ（天正 10）上杉治憲没（文政 5）

三月十二日（火） 曇 風強く寒

起床八時 朝食を抜く、九時過ぎ御祖母さん車に乗って御出になる。午前中、出発の準備をなす。午後二時芳賀医に行き齒出来上る、四円支払ふ それから小池、五十嵐君の家に行く橋本君も一緒に居た 色々と話をなし三時半帰る、途中山口寫真館に行き寫真をとってくる一円五十銭支払ふ、家に帰り布団を荷造る、それから相葉君の家に行き、餅・赤飯を御馳走になって来る、荷物の出し方を聞く、五時四十分帰る、途中上野洋服店に寄る服出来る、十五銭支払ふ六時家に帰る、これから先生の家に暇乞ひに行かう、理髪店にも行かう 終列車で行く相葉君長谷川憲一君を送って行かうそのついでに荷を出そう 明日は愈の出発である

欄外の記事

僅かを約して多くを為せ（英国俚諺）
ダヌンツイオ生（1863）日曜日を休日と定む（明治 9）

三月十三日 (水) 晴 暖

昨夜より何だか心が落ち着かずうつらうつらと眠りであった。今、起床は六時半、空には一点の曇もなく自分の前途を祝すが如き良い日本晴であった。朝食をなし稲村先生の処に挨拶に行く帰り中お君の亡霊に香を焚き九重を買ってくる。八時半、自動車に乗って出発、駅に友人十三人程歓送してくれた、又大善屋の御叔母さん天寧寺町の御母さんと御母さんと千代子姉さんが送ってくれた。渡辺兼雄君及佐治幸夫君と共に出発、郡山迄一緒に行く郡山にて佐治及渡辺君と別れる。一路平に向ふ。會工の友達に送られる。三時過ぎ平に着く、お幸御叔母さん駅に出迎へてくれた、家に着き、色々アイサツしてキーちゃんの大きくなったのには驚ろいた シューチャンに町を案内して戴く夜は活動よ

欄外の記事

土手の木の根本に遠き春の雲 (草田男)

建武中興六百年記念祭行はる (昭和 9) 独塊合併宣言 (昭和 13)

三月十四日 (木) 曇 暖

発信 : 一通 家へ

平は暖たかいが風が寒い 起床 七時半

雨が降る八時、御飯を食べ武御叔父さんの家に行く、色々と話している内に御祖母さんが迎えにこられる遅くなるぞ一、八時半家を出る、御叔母さんと秀ちゃんに送られて九時の汽車にて一路上野へ向ふ、次第に行く内に九時半にはもう空は晴れて来た途中太平洋の荒波も見えた、

午後一時四十分上野着、永瀬君とその兄さんとに迎えられた。兄さんとは上野で別れ、永瀬君と一緒に永瀬君の家に行く、永瀬君の家の人達に非常に世話になり前の見通しが暗かったのを勇気を与へ明るくしてくれたやうです、有難くて感謝せずにはおられない。夕食前、三時頃より活動を二人で見えて来た、夕食、風呂に行き、 九時 寝る

欄外の記事

くにのためとほくはたらくますらをにさとのたよりをおくれはるかぜ (鈴木茂子)

浅野長矩吉良義央を傷く (元禄 14) 蕪湖方面にソ連飛行士を捕虜 (昭和 13)

三月十五日 (金) 晴 暖

発信 : 六通 御礼状

東京の第一夜は何だか落ちつかず夜半に何ん扁起きたかわからない又非常に強い風であったのである、六時十五分起床朝食、後、七時出掛ける永瀬君に送られて駅迄行く、省線にて鶴見迄十一銭、臨港十銭 三十分を要し七時五十分頃会社到着、受付にて控室に案内される同じく、新入社する者九人程あった、先づ臨港の定期券を買ふ、半年分、月給より毎月差引く一ヶ月分支払ふ金弍円七十銭、その後、宮崎課長の話あり、先づ、仕事をはりきって愉快にやれと先づそれには健康と、

課長の話後、十一時頃、各課別に配分された、小生は庶務課の会計係、昼食五銭のそばを食べる、幸ひ向い側（机）の友達を得金子と云ふ下宿はどうも見当たらない、駄目らしい それから午後、四時過ぎ迄五時迄ソロバン練習や社内の事情を知る五時十五分帰る永瀬君一時で帰る

欄外の記事

言ふことよりも多くのことを知れ（フロータス）

シーザー暗殺さる（前 44）和氣清麿に護王大明神の神号を賜ふ（嘉永 4）

三月 十六日（土） 晴風強し 寒い

発信：二通 田島に礼状 家へ

受信：家より小包 下駄届く

起床 六時半、七時 家を出る、省線、臨港に乗り八時十五分前に着く、どうも勝手が分からないので困りものです。午前中は岡崎さんより与えられた計算を行ふ、午後は課長さんがもってこられた「会計に就いて」といふ書よむ、外全く仕事なく仕事なき程つらい事はない、自分より仕事を見付けて進んで行ふやうにしなければ早く仕事の納得は困難である。昼食にライスカレー十七銭食べる そして定食を頼む月極め、日誌を渡さる、及、バツジそれから届及誓約書かく事を言はれる、わかもと 1 円二十銭で買ふ、六時半帰る、風呂に行く七時五十分帰る、家の人風呂に行く、十一時近くねる、手紙出す（玉）

欄外の記事

ただひとすじに神を愛し己れを慎むことが必要（パスカル）

藤田東湖生（文化 3）ピアズレー没（1898）

三月十七日（日） 晴 晴

起床六時半、今日は日曜だけれども会社は木曜日が休日です。何時もの通り出勤、今日は仕事があり嬉しかった、午前中、先づ書庫の整理、十一時頃迄かかる、それから給料計算の合計（トータル）を求む、午後も前の続き、及、請求書のイロハ順に並べる及その合計

を求む途中で五時のサイレンが鳴り明日に繰越す、

六時半家に帰る

夕食後、家に手紙をかく誓約書及、届書の印を戴く為に、それから下宿をこの家に頼む事と決心す

下宿料は二十円と？位む

明日、早く停車場へ行って定期を買ふ事を忘れるな、それから、学校と中村君の家に手紙をかく事を忘れるな、就寝 九時半

欄外の記事

青空となりつつ降るや春の雪（泊月）

下関小倉間海底電線工事着手（明治6）

三月十八日（月） 晴 暖

特別記事

ム、ヒ、両巨頭、独伊国境にて列車中、秘密會談をなす、

発信：家に一通 誓約書 届書

受信：家から一通

起床 六時半、七時十五分前に出かける、それから駅で大森駅より鶴見迄の六ヶ月分定期を買ふ、十七円九十銭七時四十五分社着、

午前中、井上さんの手伝いをする、午後はひまであった、明日よりだんだん仕事をさせるって鶴田さんが言われた、日誌提出、宮崎課長さん休む、金子さんと手島さん休む、新入社員会計係に入る一人宮城県石巻の人と言ふ、山本君とか、

六時十五分帰る

この大森には非常に多く外国人が住んでゐるので毎日會ふ独逸語学校もある由家に愛子さんの友達」がこられておった、姉さんとお話して、九時半 寝る

欄外の記事

一つ灯り朝の林に春の雨（みどり女）

独戯曲家ヘッベル生（1813）マラルメ生（1842）

三月十九日（火） 晴 暖

特別記事

汪精衛氏 南京 乗込む

発信：五通 石堂 善欣 様 学校 家へ 畑 政寿様 中お マサ様

起床六時四十分 朝食を食べ急いで出かける、漸く七時十五分駅に着き直ぐ乗ると石川君に合ふ色々とお話等して行く、會社に七時四十分着く、午前中鶴田さんより工賃の計算をなす割算及乗算及トータルを出す、請求書を帳簿につける、原価計算の鈴木さんと算盤をなす、午後、午前中計算の続き請求書を帳簿につける途中でサイレンが鳴る、五時二十分帰る、六時二十分家につく 正ちゃん帰って居られた、夕食後、畑清三郎さんの処へ手紙を書き、経って新聞を見 七時五十分 布団をすく、

要は

仕事を頼まれて為すには心良く引受けて、確實及適當なる時間でなす事である、引込思案は禁時である、

欄外の記事

美しく始まり有益に終るものを掴め！それが幸福への道だ (アナトオル・フランス)
文覚上人配流 (正治元) 探検者リヴィングストン生 (1813)

三月二十日 (水) 曇 晴 寒

特別記事

- 一、健康第一ニ心掛ケル事
- 一、現在ノ与ヘラレタル仕事ヲ責任ヲ以ッテ忠実ニ勉勵スル事
- 一、毎日感謝ノ心ヲ以テ決シテ不平ヲ言ハヌ事

高瀬 三郎 言

発信：一通 畑 清三郎様

受信：二通 高瀬 三郎様 川井 亮様 誓約書 届書

起床六時四十分 急いで朝食をなして 駅に行く、鶴見駅より臨港に乗る非常に混んでセンベイにされそうであった、八時十分前會社に着く、午前中は仕事もなく請求書をイロハ順にそろへ帳簿に付ける程であったが、午後になると給料計算原簿より立替金証に記入約二百五、六十枚はあったそれを、計算して合計を求む遂に五時迄出来ず明後日に繰越してしまふ

明日はお休みである、ゆっくり休すもう、
家に六時半に着く、夕食とろろ この家では野菜を割合に多く出してくれるのでよい、風呂に行く 八時二十分 帰る、姉さん達と話して九時過ぎ 布団を敷く 九時半過 十時近く寝る

欄外の記事

春水をみだして鳥や又起てり（青峰）

イプセン生（1828）最初の東京府會（明治13）修水敵前渡河（昭和14）

三月二十一日（木） 晴 寒 暖 彼岸中日 春分

特別記事

何処ニ居リテモ如何ナル職業ニテモ社會ヤ父母ニ盡ス道ハ同ジニテ今後自己ノ天分ヲ發揮シ一意専心（誠心）業務ニ奮励スル事 石堂 善次郎

発信：一通 高瀬イシ様

受信：二通 朝 畑 政寿（速達） 昼 石堂 善次郎

朝六時半 手紙ですよと呼ぶ姉さんの声に起こされて見ると速達で畑 政五郎様より来ました内容は政寿さんは軽井沢の方にスキーに行つてゐない試験福島高専の方も終り今日休みだから一緒に遊ぼうと言ふ手紙であつた、九時半迄有楽町迄来いと、私も今日をどうしようと思つてゐたので、又五郎さんにも健ちゃんにも會へるので嬉しかった 八時半 家を出発してゆっくり歩いて駅に行つた、有楽町迄十四銭 九時十五分 有楽町につく 日本劇場の方の出口に待つ九時半 五郎さんが来る平の健ちゃんは受験で今日口頭試問に行つてゐたのでそこから市電で帝国大学迄行くと健ちゃんに會ひました、そこから新宿に行きデパート三越、及伊勢丹に行き伊勢丹で昼食をなしそこから有楽町に市電で行きエノケンの実演を日劇で見てそれから銀座を歩いて五時近く東京駅で分かれまゝ、政寿さん二十六日頃帰つてくる由、大森駅に来て白木屋を見て家に帰り、夜七時姉さんと時計屋に行きました。九時半 ねる

欄外の記事

山寺の扉に雲あそぶ彼岸かな（蛇笏）

弘法大師寂（承和2）函館大火（昭和9）波斯イランと改称（1935）

三月二十二日（金） 晴風強し 寒

発信：一通 石堂 善次郎 様

朝六時半に起きて見ると外一面は眞白い雪で覆はれてゐた。思はず驚きの声を上げてました、此の懐かしい雪を見ると何となく故郷を思ひ出して来ました 此の土地に於てそれに三月の末に雪が降るとは何と言ふ奇妙な事だらう、此分ではさぞかし故郷も多く雪が降るだらう

ゆっくりして居たので七時に朝食をなし、急いで駅に行く遂に七時十五分の電車には遅れてしまった二十分で行く会社に七時五十分に着く、午前中は請求書のイ、ロ、ハの順にそろいで買入先人名元帳に記入す。午後は立替金一括表に名前を記入す、又印をおす、残業七時迄行ふ、立替金の調べて計算して見る 家に八時に帰る、
今日は風強く天候は晴だけれど寒かった
今度から日曜日が休みとなった

欄外の記事

双子山の裏も表も春の雪 (かな女)

詩聖ゲーテ没 (1832) 保険業法公布 (明治 33) 井上良馨元帥没 (昭和 4)

三月二十三日 (土) 晴 寒

受信：一通 畑 清三郎 様

今日は昨日と打って変わった程のよい天気であったがしかし風が強い六時半頃何時も上空を飛んで行く大型飛行機を眺めながらラジオ体操のアナウサアの声を聞きつつ何時も起きるのである。昨日よりはゆっくり靴を磨き飯を食べてみると七時時報のラジオが鳴る 家を出て駅に着くと丁度十五分の省線は出たしまふ二十分に乘って八時五十一分會社に着く昨日の続き立替金一括票内訳費用の計算 それで合はずバラバラにして計算し漸く合ふ又その仕末 午後は請求書、計算及記帳、六時五十分頃迄かかる、それから算盤にて井上さんの給料計算原簿の計算を手伝ふ八時二十五分帰る

家に九時十分着く、夕食をなすと半過ぎである布団をしいて寝る、
明日は日曜で休みだけれど八時半迄出勤の事 鶴田、

欄外の記事

乳のますしぐさの何ぞけものめきかなしかりけり子といふものは (齊藤史)

府県に小学校を設く (明治 2) 日伊文化協定 (昭和 14)

三月二十四日 (日) 晴 寒

六時半 起床して七時半に家を出る今日は出勤日である八時二十分会社に着く会計課の人々は誰も来ない私と金子君だけであった。九時頃漸く全部六人集り第一応接室で給料袋に金額記入をなす、合計がどうしても合わず誤ってゐた処も見つけ漸く午後二時迄終り帰る家に三時十分に着く、それからコーヒーを飲んで町をぶらりと散歩に出掛ける 夕食六時近く

姉さん達と色々お話をして故郷の事や昔の色々な話に及ぶ

八時に兄さん帰る 二階に上って布団をしいて日記をつける
晴れた空に烈風激しく寒いのである。やはりオーバーはまだ必要である

欄外の記事

逝くもの斯くの如きか昼夜をすてず（孔子） 壇の浦の戦（寿永4）エリザベス女王没
（1603）宿屋飯盛没（天保元）

三月二十五日（月） 晴 暖

発信：三通 高瀬英一 様 永瀬 紀八郎 様 家へ

受信：一通 渡辺 兼雄 様 会社宛

六時三十五分 起き急いで用意をして出掛ける急いで行ったので駅に着くのが何時もと
同じであったが省線に何時もより早いのに間に合いました、八時四十分頃着く、朝から昨日
と同じに第一応接室で給料袋に金を入れる岡崎さん坂倉さん、金子さんと四人であった。
給料を入れる者は月給が少なくてがっかりしてしまふ、午前中に入れ終わる、十一時頃よ
り配当する、小生の本月分のサラリーは十五円也日割計算による、午後、請求書の記帳及
帳簿の整理 各差引残高を求めトータルを出す、残業七時迄 途中で半締になってしまふ、
八時十分家に着く、姉さんは兄さんの家に午後に行った由、兄さんは田舎にお母さん迎え
に行く 親戚の人を御出になってゐる、ラジオを聴いて 十時 寝る

欄外の記事

白梅の散るとき瓣（花びら弁）の大いなる（王城）

川中島の戦（弘治3）樋口一葉生（明治5）日本最初の電燈（明治11）

三月二十六日（火） 曇 暖

特別記事 電車の中で剣道の道具持つ人を見て思わずああ懐しぞ母校の道場の午後

発信：一通 五十嵐 正三 様

起床六時半 食事をして七時五分すぎ頃出掛ける十三分の省線にて八時十五分前に社に着
く、午前中に請求書、買入先人名元帳残高のトータルを求む 十一時鶴田さんと岡崎さん
出張す、午後は暇であった、会計に就いてと言ふ印刷物を読む請求書整理残高を行ふ七時
十分迄

八時家に着く 政兄さんお出かけになる夕食を食べて後、ラジオで浪曲節及音楽を聞き
九時四十分床に就く

永瀬君久しぶりで、家に手紙を書き、佐渡郡相川町 佐渡鉦山麗水寮に居る係は労務係

だそうである。政兄さん 若松に夜行にて急に行かれる

欄外の記事

ゆうべ飢うる野犬の眼怒り撃つ (阿部秋燕子)

広瀬中佐戦死 (明治 37) 独音楽家ベートーヴェン没 (1827)

三月二十七日 (水) 曇 寒

発信：二通 風間先生 家へ

受信：家より 夜

起床 六時四十分 食事をなし、駅に行く、十五分のに乗れる 二十分発 会社に五十三分着く、仕事なく一日中ぼんやりとあくびの連発である、岡崎さん出張午後より、

残業をなす、七時迄 帳簿の口座作る、八時家に帰る

夕食サシミを食ベラジオ漫談及勸進帳を聞いて 十時半床に就く

今日は割合に寒かった

若松は二十二、二十三日は大吹雪の由

欄外の記事

善を為すの奢侈を学べ (ゴールド・スミス)

香川景樹没 (天保 4) 島木赤彦没 (大正 15) 皇軍南昌完全攻略 (昭和 14)

三月二十八日 (木) 晴 寒

受信：二通 高瀬 文子 様 五十嵐 正之 様

すみきった空に風強く寒いのである

六時半に起きて行く櫻木町行に乗る、社に七時五十四分着く、朝からぼんやりしてゐると

鶴田さんより得意先元帳と作業収入未決算とを繰り越しのあるのもをつき合せる 午前中

漸く要を覚えて午後よりやり出す、残業七時迄、遂に中途にて止める、明日に繰り越す、

時計を途中大森駅を左の方に下りて時計屋に廻って一円也を支払ふ、八時、家に帰る、

食べすぎか、口唇が乾いてゐる

種とらうとやるも皆ねつかず九時風呂に行く九時四十分帰る

寝ようもう十時二十分だぞ

五十嵐君 中野無電に入る由

欄外の記事

春風や鬪志いだきて丘に立つ (虚子)

吉田松陰捕縛 (安政元) 佩刀禁止令 (明治 9) 中華民國臨時政府成立 (昭和 13)

三月二十九日 (金) 晴 暖

特別記事 新宿大火

風なく晴れた空に飛行機爆音勇ましく東から西へと飛んで行くすみきった空、ラジオ体操の元気な声も響きわたる朝 便所に行くも通じがなく十分間位、頑張と漸く僅か出る、時間はなし急いで飯を食べ泥靴はいて飛んで行く、遂に遅れて二十分の省線で時計を見ながらはらはらして乗って行く思ったより早く五十一分に会社に着きました。

昨日の続きでどうしても三菱鉱業が合わず帳簿と一日にらめっこです、遂に出来ず鶴田さんの帰ってくるまで、待つ、四時半こられたので聞く残業迄に及ぶも出来ず鶴田さんに一任す、八時家に帰る、途中電車の中で日立製作所に行っている佐藤秀雄さんと会ふ、非常に懐かしかった。ラジオを聞いて九時半床に就く、「早起きは三文の得」

欄外の記事

わびぬれば身を浮草の根をたえてさそふ水あればいなむとぞ思ふ (小野小町)

八百屋お七処刑 (天和 3) 遊女玉菊没 (享保 11) 貨幣法発布 (明治 30)

三月三十日 (土) 晴 暖

特別記事

中華民国新中央政権 南京還都式 挙行 主席 汪精衛氏

受信：一通 永瀬紀八郎様

起床六時半、靴をみがきながらゆっくりして飯を食べて鶴見駅に十五分過着く、二十三分の省線にて行く五十三分着く、今日は仕事が大した事もせず午後 0 時三十分より材料課が引越しなので各係の場所が変る 材料は新しい事務に原価が来る その慰労にそば出る、五時四十分帰る途中京浜デパート (鶴見) に依って姉さんから頼まれた宇山さんより写真をとって来る、

六時二十分家に帰る、夕食をしてラジオを聴く日華交歓放そうを聞く、八時半、家のお母さんと大きい姉さんと政兄さんが帰って来られる、色々話をして十一時寝る

政兄さん私の家に寄られた由

時計又もや故障す

欄外の記事

大苦は小苦を療す (シエイクスピア)

画家ゴヤ生 (1746) 仏詩人ヴェルレーヌ生 (1844) 画家ホッホ生 (1852)

三月三十一日（日） 雨後晴 暖

今日は日曜、嬉しいな、愉快地に遊ぼう元気にね、

今日の天気は朝から雨だ、心の曇晴れないぞ

午前十時 朝食をなしおばさんや姉さん達は荷物を整理して今迄、私が六畳の部屋に居たが今日から四畳半の西側の部屋に成りました。

それから三時 昼食をなし、四時に姉さんおばさん政兄さん達は白木屋映画劇場に行く「嫁ぐ日まで」原節子主演「背信」ダニエルターエウ主演を見る七時家に帰る、夕食をなしみんなどお話などをして十時寝る

三月も終わった もう四月だ

三月分下宿代 金拾圓也

右正ニ支払申候 川井正輔 サイン（赤）

欄外の記事

消えてゆく雲をうたへり春の鳥（燕子）

哲学者 デカルト生（1596）ゴーゴリ生（1809）